

# 教職支援室便り（8月号）

令和7年 8月 8日（金）

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

## 教員採用選考試験：二次試験進行中

本年度の教員採用選考試験も、第二次試験が始まっています。すでに第二次試験が終わった自治体もありますが、全国的に試験日程に幅があることから、本学の学生の皆さんの中には、第二次試験が終わっている人と、これから受験する人がいます。第二次試験対策の演習は、5月中旬から開始しましたが、このような状況から、8月中旬まで続けていくことにしています。3か月以上の長い期間の演習になっていますが、学生の皆さんの懸命な取組は、私にもしっかりと伝わり、私自身の知力・体力の向上にもつながっています。本当にありがたいです。

### <受験を終えた学生の皆さんの思い>

教員採用選考試験を受験しての感想は、これまでの教職の授業や教職特別講座で学んだ知識や経験を存分に発揮し、自分の中にある「教員になりたい」という強い思いを持って、試験に挑むことができました。筆記や面接では緊張もありましたが、学んできた内容をひとつひとつ丁寧に振り返り、自分の言葉で伝えられたことに手ごたえを感じています。

また教職特別講座を受講して、学校現場に関わる法律や制度、教師としての在り方など、教員として必要な幅広い知識を学ぶことができました。学んだことを基に、自分自身の考えを深めたり、友達と意見交換をすることで視野が広がったりと、とても有意義な時間であり、将来教員になった際には必ず活かされるものだと思います。また、曾我先生の熱意のあるご指導は大きな刺激となり、教員という仕事へのあこがれや覚悟がより一層強まりました。

一次試験対策では、特に覚えることが多くて苦戦しましたが、その学びがあったからこそ、面接試験で生徒指導や教員のあり方について深く考えることができました。1・2年前の私は、自分が本当に教員になれるのか不安でしたが、特別講座などを通して自分が人間として、教職を志すものとして大きく成長できたと感じています。先生にはお忙しい中指導していただき、ありがとうございました。先生がこれからも、教職を目指す学生の道しるべとなってくださることを願っています。

二次試験では、特別講座でしっかりと対策した部分が出題され、質問を受ける度に思い出しながら臨めたのでとてもよかったです。当日は緊張しましたが、何時間も演習を行って、今まで準備してきたノートを見返していたら、自信が出てきて緊張もほぐれたような気がします。特別講座では、一人ではなく他の人の面接や意見を聞くことで考えを深めることができました。どれだけ準備してもしすぎることはなく、疑問に思うことを確実につぶしていき、様々な分野に対する情報を自分のものに自分の言葉にしておくことが大切だと感じました。特別講座で身につけた知識を学校現場でも活かしたいです。特別講座を受けさせていただき、とても感謝しています。ありがとうございました。

# 夏季教職特別講座：演習

教職支援室便り 7月号では特集として、面接試問「557」を活用した面接演習と特色のある面接演習の取組について掲載しました。

今回は、模擬授業演習、グループワーク演習について取り上げます。

## <模擬授業演習>

模擬授業についても、実践的な演習を行っています。本年度も、模擬授業の目的、評価の視点、評価項目、面接者の試問例、留意事項等についての、オリエンテーションからスタートしました。

また、中学校・高等学校の英語科に関する模擬授業試験を受験する皆さんがいることから、本学の英語科の先生方にも指導助言をお願いしています。小学校を受験する皆さんも含めて、日を追うごとに、模擬授業力向上への意欲の高まりが見られ、力を付けているのがわかります。

### <模擬授業演習の方法>

模擬授業演習についても、積み上げていくことが重要です。一人での演習、同じ校種の人との演習など、演習形態を工夫して取り組むことが求められます。特別講座のときには、同じ校種の人との演習が適していると考えます。相互に模擬授業を参観し批評し合うなど、協力して高め合っていく姿を期待しています。

演習は、次の要領で行います。

- 小学校、中学校・高等学校のグループごとに演習を行う。
- 採用試験における模擬授業時間を確認する。
- ① 授業を始める前に、模擬授業に関する自己課題を発表する。
- ② 他の人にタイムキーパーを依頼する。
- ③ 模擬授業を行う。
- ④ 参観者から、質問等を出してもらう。
- ⑤ 次回の自己課題を明確にする。

### <質問例>

- 模擬授業を行って、どのような課題がありましたか。また、その課題はどのようにすれば改善できますか。
- 本時の「めあて（課題）」を設定する際に、どのようなことに配慮しましたか。
- 終末の「まとめ」は、どのような計画でしたか。
- この授業で、一番身に付けさせたかったことは何ですか。
- この授業は単元全体でどのような意味を持っていると思いますか。
- ICTを活用するとしたら、どの場面で活用しますか。

### <模擬授業演習の様子>



## <グループワーク演習>

### <グループワーク演習の様子>



### <グループワーク演習の方法>

グループワークの試験においては、「独断型・自信過剰型」や、「追従型・イエスオンリー型」として評価されることは避けたいところです。

ここで重要なポイントは、リーダー的要素とフォロワー的要素のバランスです。その時間の中で、両者が適度に見られることが、高い評価につながります。積極性や協調性は、教員に求められる重要な資質・能力です。

本演習の中では、リーダーとして、フォロワーとして、自分がバランスよく問題に対応しているかについて、学生の皆さん同士が、相互評価を行いながら演習を進めています。

演習は、次の要領で行います。

- ① 自分の考えを、多面的・多角的な視点で整理しておく。
- ② 「積極性」と「協調性」のバランスに配慮する。
- ③ 常に前向きに、活動を前進させる発言に努める。(ポジティブな声かけ)
- ④ 活動プロセスを想定しておく。
  - ・第1段階～各自の考えの発表
  - ・第2段階～全員の考えの整理・統合
  - ・第3段階～整理・統合した内容の検討
  - ・第4段階～総合的なまとめ
  - ・第5段階～発表



### <ポジティブな声かけの例>

- それはよい考えですね。
- その考えでいきましょう。
- ここは、このように工夫してみてもはどうでしょう。
- 私は～してはどうかと思います。
- 私は、～さんの考えに賛成です。
- ～さんは、どのように考えていますか。
- もう一度、考え直してみましょう。

# 道徳の教科化に思う！（シリーズ99）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。

今回は、先月号からスタートしたテーマ「生きる力をはぐくむ道徳授業の創造～発問や資料選択を児童にゆだねる道徳の時間の指導の在り方～」の2として、「研究の実際その1：一つの内容項目についての複数時間配当する道徳の授業計画」について掲載します。

## ＜一つの内容項目についての複数時間配当する道徳の授業計画＞

### 1 指導計画作成の工夫

(1) 一つの内容項目について、年間に複数時間配当する場合の年間指導計画上の位置付け  
年間指導計画作成において、一つの内容項目に複数時間配当する場合、次の点に留意して位置付ける。

- ① 学級の実態に即して、重点指導内容項目に複数時間配当する。
- ② 学期ごとに配分するなど、定期的に間をおいて位置付けることにとらわれず、児童の学習意欲を中心に考え、弾力的な位置付けを図る。そのために、次のような指導の工夫を行う。
  - 一つの内容項目について、連続して学習する時間を設定する。
  - 一つの教材を一単位時間で学習するというのではなく、多教材を多時間で学習する弾力的な位置付けを図る。
  - 連続して設定する際は、一単位時間45分にとらわれず学習内容によっては、30分、45分、60分など、一単位時間の弾力的な運用を取り入れる。
  - 複数時間をひとまとまりの指導構想としてとらえ、各時間の性格付けを明確にする。
  - 指導計画全体の「ねらい」、各時間の「ねらい」を設定する。

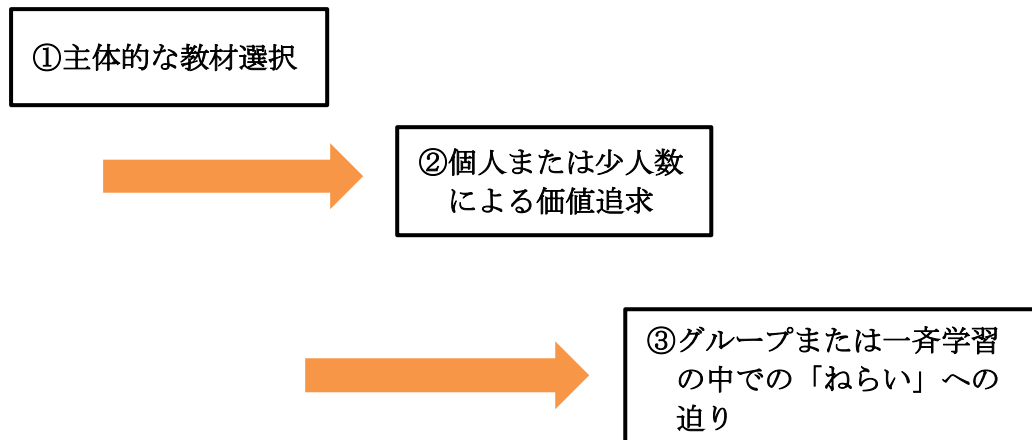
(2) 複数時間をひとまとまりと考えての各時間の性格付け

複数時間をひとまとまりと考えて指導計画を作成する場合は、各時間の性格付けを明確にしておかなければならない。基本的には、次のように考える。

ア 複数の教材を読み、その中から児童が学習したい教材を主体的に選択する時間

イ 選択した教材における登場人物の生き方を整理し、自力解決またはグループ学習を通して価値追求を深める時間

- (3) 「ねらい」と児童の活動を中心とした学習方法の位置付け  
各時間の性格付けを明確にすることで、各時間の学習方法も位置付けることができる。



## 2 一単位時間の性格付け

- (1) 指導計画における特質に基づく一単位時間の弾力的運用

一単位時間は、45分で行うことが定例であるが、本研究では学習の特質に基づいて、30分、60分も取り入れることとする。

I 教材選択を中心とした時間・・・30分

II 教材による価値追求を深める時間・・・45分

III ねらいへの迫りを確かにする時間・・・60分

ここでは特に、「ねらい」への迫りを確かにするために、グループや全体での話合いに重点を置くことから、IIIについては60分を計画する。

- (2) 一単位時間の弾力的運用に基づいた児童の活動と教師の支援の在り方

◇ 本項目については紙面の関係で、次回9月号に掲載します。